

令和6年度中野区立小・中学校給食費の改定について

学校給食は、児童及び生徒の心身の健全な発達に資するものであり、学校における食育の推進を図ることを目的としており、教育的役割がある。また中野区では、安全安心な食材選びや伝統的な食文化の継承に配慮し、給食内容の充実を目指してきた。一方給食費は、小・中学校それぞれに令和元年度に現単価へ改定した以降は再改定を行っておらず、物価高騰の影響等による価格上昇の影響により、中野区が目指す給食提供が難しくなっていることから、下記のとおり改訂する。

記

1 給食費の改定

物価高騰の影響を受け、現行の給食費において、価格が高騰している食材の使用量を減らし、安価な食材で代替したり、副菜や果物の品数を減らしたり、献立を工夫して対応しているが、今後もこの状況が続くと対応しきれなくなる懸念がある。

栄養面や食事量の確保と、学校給食を充実していくためには給食費の改定が必要であるため、令和6年度中野区立小・中学校給食費1食単価を以下のとおりとする。

このことにより、国産食材の使用や、旬の食材を使用したバラエティに富んだ献立が可能となり、食育の機会を増やすことができると考える。

		令和5年度 一食単価(円) ※	令和5年度 保護者負担 単価(円)	令和6年度 一食単価 (円)	差額(円)
小学校	低学年	268	(258)	285	+17
	中学年	288	(278)	310	+22
	高学年	308	(298)	335	+27
中学校		349	(339)	375	+26

※原油価格・物価高騰による給食食材の値上がりに対する補助(一食あたり10円)を含めた額

2 主な食材の価格変動

(1) 飲用牛乳

令和元年度以降、価格の上昇が続いている。また、令和5年度の飲用牛乳の価格は、前年度に比べて+約5円となり、これまでにない値上げ幅となっている。

牛乳代金は給食一食単価のうち1.5~2割程度にあたり、ほぼ毎日提供するものであるため、その値上がりは給食会計を非常に圧迫するものである。

	保護者負担額(円)
令和元年度	51.30
令和2年度	52.32
令和3年度	52.82
令和4年度	53.73
令和5年度	58.38

(2)パン、麺

毎年少しずつ価格上昇がみられ、小麦の価格は高止まりの状態であるが、輸送費や人件費等の上昇により、パンや麺の価格は上昇する可能性がある。

小麦粉量※	食パン(円)		丸パン(円)		冷凍うどん(円)	蒸し中華麺(円)
	50g	70g	50g	70g	(kg単価)	(kg単価)
令和元年度	34.29	46.06	53.69	59.14	315.00	354.00
令和2年度	34.69	46.53	54.24	59.66	324.00	353.00
令和3年度	34.86	46.72	54.41	59.85	435.00	354.00
令和4年度	37.12	49.80	56.77	62.95	357.60	376.00
令和5年度	41.03	55.09	60.98	67.88	400.80	402.00

※小麦粉量…パンの大きさ(サイズ)を表す。50g=小学校中学年 70g=中学校

(3)米

区立小・中学校では週3～4回程度は主食が米飯となっているため、精米価格の動向も非常に影響が大きい。価格は令和4年度使用分が底値となった後、上昇している。

	つがるロマン (kg単価・円)	あきたこまち (kg単価・円)
令和元年度使用分	344	376
令和2年度使用分	345	377
令和3年度使用分	338	369
令和4年度使用分	304	338
令和5年度使用分	323	356

3 平成23年度以降の区立小・中学校給食費1食単価の推移

(単位 円)

年度	小学校			中学校
	低学年	中学年	高学年	全学年
平成23年度	230	250	270	300
平成24～28年度	245	265	285	315
平成29～令和元年度	245	265	285	322
令和2年度～	258	278	298	339